

平成 24 年度 事業報告書

学校法人 甲南女子学園

I. 学校法人の概要

学校法人甲南女子学園(以下「本学園」という。)は、大正 9 年(1920 年)に甲南高等女学校創立以来、「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「清く正しく 優しく 強く」を校訓として掲げると共に、「全人教育、個性尊重、自学創造」の教育方針を持ち、阪神間を代表する女子教育機関として、豊かな人間性を育みつつ、個性に応じた才能を伸ばす教育を実践してきました。

本学園は、甲南女子大学大学院(人文科学総合研究科・看護学研究科)、甲南女子大学(文学部・人間科学部・看護リハビリテーション学部)、甲南女子高等学校、甲南女子中学校で構成され、同窓生数は 50,000 名を超えています。甲南女子大学では、21 世紀型の女子大学として、グローバルな視野で、柔軟な思考と行動力を身に付けた女性を育成し、男女共同参画社会での豊かな社会づくりに貢献できる女性の育成を目指しています。また、甲南女子高等学校・同中学校では、知・徳・体のバランスの取れた人格の育成を基盤として、少人数教育による一層の教育成果の実現を目指しています。

今後、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、一般財団法人甲南会(甲南病院他)及び本学園の甲南 4 法人の絆を更に深め、4 法人共通の創立精神のもと、それぞれの特色を強化し、更に英知を結集して、教育・医療における社会貢献を果たし、阪神間における甲南 4 法人の存在感をより一層高めていきたいと考えています。

1. 学生・生徒数等の推移(5月1日現在) (単位:名)

区 分	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
○学生在籍者数				
人文科学総合研究科	52	45	33	29
看護学研究科	—	—	—	8
文 学 部	1,524	1,607	1,628	1,618
人間科学部	1,674	1,785	1,810	1,817
看護リハビリテーション学部	468	607	660	678
計	3,718	4,044	4,131	4,150
○生徒在籍者数				
高 等 学 校	475	484	488	495
中 学 校	516	523	536	546
計	991	1,007	1,024	1,041
○教職員数				
専任教職員	289	299	299	300
非常勤教職員	270	308	322	347
計	559	607	621	647

2. 入学定員・収容定員・入学者数・在籍者数の概要（平成24年5月1日現在）

学 科・専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
文 学 部				
日 本 語 日 本 文 化 学 科	80	92	320	416
英 語 文 化 学 科	120	140	480	535
多文化コミュニケーション学科	70	93	280	357
メ デ ィ ア 表 現 学 科	60	63	240	310
文学部 計	330	388	1,320	1,618
人 間 科 学 部				
心 理 学 科	90	109	360	443
総 合 子 ど も 学 科	120	135	480	554
文 化 社 会 学 科	80	101	320	411
生 活 環 境 学 科	80	102	320	409
人間科学部 計	370	447	1,480	1,817
看護リハビリテーション学部				
看 護 学 科	85	95	365	412
理 学 療 法 学 科	60	73	240	266
看護リハビリテーション学部 計	145	168	605	678
甲南女子大学 合計	845	1,003	3,405	4,113
大学院人文科学総合研究科 博士前期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	9	2	18	3
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	13	7	26	17
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	9	1	18	3
博士前期課程 計	31	10	62	23
大学院人文科学総合研究科 博士後期課程				
言 語 ・ 文 学 専 攻	3	1	9	1
心 理 ・ 教 育 学 専 攻	3	2	9	2
社 会 ・ 文 化 環 境 学 専 攻	3	1	9	3
博士後期課程 計	9	4	27	6
大学院人文科学総合研究科 計	40	14	89	29
大学院看護学研究科 修士課程				
看護学専攻	5	8	5	8
大学院看護学研究科 計	5	8	5	8
大学院 合計	45	22	94	37
甲南女子中学校・高等学校				
甲 南 女 子 中 学 校	180	190	540	546
甲 南 女 子 高 等 学 校	180	173	540	495
甲南女子中学校・高等学校 計	360	363	1,080	1,041

Ⅱ．事業の概要

1．事業の概況

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行、学校間競争の激化、経済不況等、ますます厳しさを増しています。かかる状況下で本学園は、92年にわたる甲南女子教育の伝統と実績をもとに、常に中学校、高等学校、大学及び大学院における女子教育の新しいあり方を追求するとともに、中長期の視点から健全財政の実現と経営基盤の更なる安定・強化に取り組んでいます。具体的には、建学の理念を基盤に「教員力・職員力の向上」「優秀な入学者の確保」「学士力の向上」「就職率の向上」「甲南女子ブランドの向上」を戦略目標とする第2次全学中期計画(平成24年度から26年度)を策定し、これを学園全体で共有し、PDCA(Plan Do Check Action)サイクルを回しています。中高新校舎建設については、2期工事として、旧中学棟・高校棟の解体跡地に、テニスコートを整備しました。大学キャンパスについても10年構想をもとに、将来の学習環境整備に着手しています。

大学院においては、看護学研究科(修士課程)を開設し、質の高い高度な看護実践を支える教育・研究者及び指導者、特定の専門看護分野で活躍できる専門看護師の養成を目指した教育課程を編成しています。

甲南女子大学では、総合子ども学科の一層の充実のために「社会福祉法人甲南愛育会」を設立し、「甲南保育園」を神戸市東灘区森南町に開園し、5年目を迎えるようとしています。学生寮としては、「Konan Clover House」(一人部屋、定員155名)を神戸市東灘区甲南町に設置しています。

甲南女子中学校高等学校では、新校舎の教室増により、全学年を5学級編成とし、中高6学年30クラスの編成となりました。また、スタンダードコースもSアドバンストコースと同じく週6日制とし、全校週6日制となりました。Sアドバンストコースは、開設5年目となり、中学1年生から高校1年生までは各2クラス、高校2年生は1クラス、計9クラスとなりました。

2．大 学

(1)教育体制

文学部においては、平成24年度から、英語英米文学科の学科名称を英語文化学科と変更し、科目体系の再構築を行い、卒業単位に占める学科専攻科目の単位数を増やし、より実践的な英語力を身に付けることができるカリキュラムにしました。

看護リハビリテーション学部では、3回目の卒業生を送り出し、看護学科では、初年度から3年連続看護師国家試験受験者全員が合格し、理学療法学科でも、昨年度92.2%の合格率であったものが今年度は新卒者に限ると98.1%、既卒者を含めても94.9%の合格率となり、全国平均を大きく上回り、目覚ましい成果を上げました。

看護師・保健師・助産師・理学療法士 国家試験結果

		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
1 期生 (平成 23 年 2 月受 験)	看護師	59	59	100	91.8
	保健師	55	53	96.4	86.3
	助産師	4	4	100	97.2
	理学療法 士	50	40	80.0	74.3
2 期生 (平成 24 年 2 月受 験)	看護師	70	70	100	90.1
	保健師	60	53	88.3	86.0
	助産師	2	2	100	95.0
	理学療法 士	77	71	92.2	82.4
3 期生 (平成 25 年 2 月受 験)	看護師	104	104	100	88.8
	保健師	97	96	99.0	96.0
	助産師	4	4	100	98.1
	理学療法 士	59	56	94.9	88.7

大学院においては、平成 24 年度に看護学研究科が設置され、2 研究科を擁する形となりました。

大学院(専攻)・学部(学科) 一覧 (平成 24 年度)

大学院	人文科学総合研究科 (博士前期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
	人文科学総合研究科 (博士後期課程) 言語・文学専攻 心理・教育学専攻 社会・文化環境学専攻
	看護学研究科 (修士課程) 看護学専攻

学 部	文 学 部	日本語日本文化学科 英語文化学科 多文化コミュニケーション学科 メディア表現学科
	人間科学部	心理学科 総合子ども学科 文化社会学科 生活環境学科
	看護リハビリテーション学部	看護学科 理学療法学科

(2)教育活動

各学部学科における専攻科目は、社会情勢の変化に応じて、見直しを行っています。

甲南大学との大学間連携講座に関しては、前年度に引き続き本学から、48名の学生が甲南大学の授業を受講しています。また、甲南大学からも前年度に引き続き数名の学生が本学科目を受講し、単位互換での交流が進んでいます。

本学園内でも、高校から大学への進学者を増やすために、平成20年度に大学と甲南女子高等学校で協定書を締結し、以降毎年大学で高大連携講座「大学講座」を開講しています。平成24年度は年間を通じて66名の高校生が本講座を受講しました。

(3)外国語教育

外国語教育については、実践的な英語力の向上への取り組みを継続的にを行っています。また、英語以外の外国語についても、社会のニーズを踏まえ、初習外国語としてフランス語、ドイツ語、インドネシア語、韓国語、中国語を開講しています。

(4)国際交流

平成24年度は、既存の国際交流プログラムの見直しと新規プログラムを進める中で、アイルランドのコーク大学とニュージーランドのウェリントンビクトリア大学と認定留学の協定を締結することとなり、平成25年度より学生を派遣する予定です。韓国の誠信女子大学校から派遣される交換留学生枠を2名増やし、平成25年度より交換留学生枠は年間4名となりました。平成24年に実施した国際交流室主催の短期プログラムは語学文化研修6件、スタディーツアー2件、学科の主催による短期演習は3件となりました。今後、さらに国際交流協定校を増やし、本学の第2次中期計画の重点項目である「国際化の推進」をさらに進めていきます。

【平成24年度実績】

交換留学：(中) 天津外国語大学（派遣2名）（韓）淑明女子大学校（派遣4名）、誠信女子大学校（受け入れ2名、派遣4名）（仏）パリ第7大学（受け入れ1名）
認定留学：(米) 西イリノイ大学 WESL（3名）、(加) リジャイナ大学 ESL（9

名)、(仏) ナント大学 IRFFLE (2名)、(韓) 淑明女子大学校国際言語教育院 (1名)、(新) カンタベリー大学 CCEL (8名)、(英) ヨーク大学 CELT (0)、リーズ大学 (0) (中) 天津外国語大学国際交流学院 (1名)、復旦大学国際文化交流学院 (6名) ダルマシスワ国費留学 (3名)

語学文化研修・スタディーツアー：(加) リジャイナ大学 ESL (23名)、(中) 復旦大学国際文化交流学院 (0名)、(韓) 淑明女子大学校国際言語教育院 (19名)、(英) ヨーク大学 CELT (13名)、(仏) CAFJ (0名) (泰) プラティープ財団「生き直しの学校」を訪ねる旅 (9名)

海外研修：(韓) 海外日本語教育実習(8名)

このほか、学内の国際化をめざし、^{スシミュ}淑明女子大学校訪日文化研修団の受入れなどの国際交流活動を実施しました。

(5)情報教育

情報化社会に対応し、初級から上級者向けの科目を全学共通科目に設けています。

全 CALL 教室のハードウェア及びソフトウェアを最新バージョンに更新しました。また、電子黒板導入により、ICT 学習環境の充実も図りました。

(6)学生生活

社会化学習への支援として毎年マナー教育を行っています。共通教育科目「大学探検」の授業や学科単位で行うマナー講座を提供しています。

また、現在本学学生の3人に1人は奨学生です。奨学金希望者には学生向けの説明会を数多く行っています。

学生の健康面では、保健室を中心として学生の健康管理を行っています。心因性による内科精神的悩みを訴える学生に対して、支援要請があれば、事前に面談を実施し、プライバシーを守りながら授業担当者に配慮を要請しています。

その他、AEDを学内に3台増設(計6台)、寮に1台新設しました。

(7)課外活動

軟式庭球部 兵庫学生ソフトテニス優勝大会 優勝

西日本学生ソフトテニス選手権大会 第3位

チアリーディング部 第19回西日本チアリーディング選手権大会 第3位

全日本学生チアリーディング選手権大会 決勝進出

(8)就職活動

平成24年度の就職状況は、経済環境の持ち直しにともない、非製造業を中心に採用数が増え、結果として本学の就職率も92.5%と昨年度の90.8%を上回ることができました。特に看護学科、理学療法学科の就職率が100%であったこと、また、就職希望率が、昨年の78.6%から81.7%に上昇し、就職した人数でも昨年より98名増加しています。施策として重点的に取り組んだことは、①4年生を対象に従来以上に新卒応援ハローワークとの連携を強化するとともに、電話調査を活用した多数の学生へ求人情報や学内での企業選考会開催情報の提供したこと②3年生のために筆記試験対策の支援強化として、前期・後期の両

方で「対策講座」を実施したこと③オリエンテーション時に「就職ガイダンス」を実施することにより、昨年度比 1.5～2 倍の学生の参加が得られたこと。以上の 3 点です。また、資格サポートセンターの支援により、学生が資格取得にチャレンジし優秀な成績を修め、マイクロソフトオフィススペシャリスト大学・短期大学の部で全国 2 位となりました。さらに、公務員試験対策や教員採用試験対策の実施により市役所の職員や公立施設の教員・保育士に合格し、社会での活躍が期待できます。

(9)大学開放

平成 24 年度は、大学祭を学園行事と合わせて、10 月の第 4 土曜日に実施しました。また、例年同様、同窓生を招いて、第 31 回ホームカミングデーを同時に実施しました。卒業生の参加者は 592 名で、ゼミのクラス会には 7 組 166 名の参加がありました。

さらに大学が有する人的・物的・知的資源を広く学外へ提供する公開講座・研修会等を実施しました。

公開講座 「イメージの解読—身体・メディア表象」、東日本復興支援ドキュメンタリー映画上映会

研 修 会 「D-PEC」臨床実習指導者育成

地域交流 「甲南子育てひろば」、「大学たんけん」 本山第一小学校、
「夏休みわくわく体験スクール」

芸術文化 「芦屋交響楽団」 芦原講堂開放

心理相談 「心理相談研究センター」

(10)学生募集

平成 24 年度においては、高校訪問活動を強化し、前年度より 10%以上増の 368 校を訪問しました。また、高校内実施の説明会も積極的に参加し、前年度より約 50 校増の 118 校に参加し、オープンキャンパス、受験への誘導を図りました。また、新たに WEB での合否照会システムを導入し、受験者からの利便性も向上し、一部費用軽減の効果にもつながり、トラブルもなく安全に運用できました。

学生募集広告については、WEB・紙媒体を中心に行いました。受験生向けの DM を「Nanjo Voice」と名称変更を行うとともにデザインと内容を一新し、オープンキャンパスへの動員を図りました。また、一般入試向け広報として、WEB でのバナー広告の掲出を増加し、一般入試出願への動員につなげました。

(11) ベスト・ティーチャー賞

学生に対する授業評価アンケートを参考として、大学教員(1 名)に「ベスト・ティーチャー賞」を授与しました。

(12)地域貢献

対外協力センターの社会貢献室では、学生の「学び」と「地域」をキーワードに、学生のボランティア活動のサポートや地域貢献活動に取り組みました。平成 24 年度に社会貢献室・ボランティアセンターにおいてボランティア登録を行った学生は約 960 名(前年度 750 名)に達し、12 団体に学生を派遣しました。

対外協力センター発足から 4 年目を迎え、より「地域」に密着した社会貢献活動に取り組みました。地元商店街と共に年 2 回岡本の街の清掃活動を行う「岡本一斉クリーン作戦」には、今年は 130 名の学生・教職員が参加しました。

また、平成 24 年度から岡本商店街のハロウィーンイベントにも学生 60 名を派遣し、商店街の活性化に貢献しました。恒例行事となったチャリティーコンサートは、芦原講堂において、3 回実施し、地域に開かれた大学としての役割を果たしました。コンサートで集まった募金総額の 1,176,703 円は、全額あしなが育英会東北レインボーハウスの建設資金として寄付しました。

(13)施設関連

経年劣化による施設・設備の改修を始め、学習環境等の整備、及び省エネ推進等を実施しました。

主なものとしては、3号館増築部分(北側)の外壁改修及び4号館の屋上防水、設備関連としては管理棟地下1階電気室に設置している受電用設備等の更新を行いました。

学習環境等の整備としては、5号館3階文化社会学科コモンルームの拡充、7号館3階731教室(実習室)を製菓実習のできる教室に改修すると共に、732教室は試食環境実習室に改修し、実習施設の拡充を図りました。

省エネ推進としては、平成 21 年度から順次設置している温水洗浄便座を同窓会館の清友園に設置しました。その際、照明及び水道はセンサー感知式に取替えました。

また、7号館利用者の利便性とバリアフリーの拡充を勘案し、エレベータを1基増設しました。

3. 中学校・高等学校

(1)教育活動

中学 1 年生は、入学前に中学生としての自立や友達作りを目的としたスプリングセミナーを実施しました。中学 2 年生は、「総合平和」学習の授業の一環として、9 月に広島への研修旅行を実施しました。中学 3 年生は、7 月に 3 日間の保育体験学習を実施し、2 月にはウィンタースポーツ実習として長野のスキースクールで実習に取り組みました。

高校 1 年生は、3 月に 3 日間、スプリングセミナーとして勉強合宿に取り組み、10 月に「総合探求」学習の一環として、水俣への研修旅行を実施しました。高校 2 年生は、8 月にサマーセミナーとして勉強合宿に取り組み、11 月には沖縄への修学旅行を実施しました。

また、2 月には、一年間の「学習成果発表会」を、甲南学園（大学、高校・中学校）、甲南小学校、との三学園合同で開催しました。

(2)生徒指導

生徒指導部と生徒自治会の「和光会」が中心となって、「あいさつ」の励行や頭髪・容儀の指導を随時行っています。登下校時は、学期ごとに当番を組み、最寄駅(阪急芦屋川駅、JR 甲南山手駅)での指導を続けました。また、校内美化として、毎日昼食後に生徒全員で全校清掃を行っています。

(3)環境学習

甲南学園（大学、高等学校・中学校）、甲南小学校との三学園による農業体験学習を、6月・10月・2月の3回実施しました。また、9月には住吉川環境学習を実施しました。

(4)行事

4月に文化祭、9月に体育大会を実施しました。文化祭は文化祭実行委員が、また、体育大会は体育委員が中心となって運営しました。文化祭は家族・友人に公開され、卒業生や受験生など来場者数が4,000名近くにのびりました。体育大会では、全校生徒が4つの色（赤・白・黄・緑）の「団」に分かれ、6年間同じ団に所属することで、高3から中1までが一つのチームとなって、団別対抗で競技を行う、というのが他校にない特長ですが、平成24年度も多くの来校者が訪れ、応援合戦を中心に大きな盛り上がりを見せました。

(5)土曜日活用

高校2年・3年の希望者を対象に、通年で国語・数学・社会・理科・英語の補習授業を実施しました。

(6)国際交流

下表の通り実施しました。

期間	相手国：学校名	送出	受入
長期	ドイツ：デートリッヒ・ボンヘッファー・ギムナジウム	1名 9月～翌7月	
	イギリス：クィーンズウッド	1名 9月～翌7月	
中期	オーストラリア：セントマーガレッツ・アングリカン・ガールズ・スクール	2名 7月～9月	2名 10月～11月
短期	カナダ：プリンスエドワード島でのホームステイ	夏休み 17日間	
	イギリス：セントヘレンズ		3名（10月）
	ハワイ：ル・ジャルダン		3名（6月）
	韓国：培花女子高校		1名（2月）

(7)課外活動

<部活動>

【アーチェリー部】

第55回兵庫県高体連神戸支部 アーチェリー大会

○団体 優勝

○個人 準優勝・5位・6位

第55回兵庫県高体連神戸支部 アーチェリー競技会

○70Mラウンド 優勝、6位

第22回近畿私立高校アーチェリー大会

○団体 準優勝

○個人 2位、3位

第66回兵庫県民体育大会 アーチェリー競技会

○高校女子団体 優勝、3位

○高校女子個人 優勝、3位、4位、5位

○30mWの部 優勝

第56回兵庫県高等学校総合体育大会アーチェリー競技

○団体の部 優勝

○個人の部 準優勝、4位

平成24年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会

高円宮賜杯第45回全国高等学校アーチェリー選手権大会

○団体 8位

平成24年度近畿高等学校アーチェリー選手権大会

○団体 準優勝

第23回兵庫県私立中学高等学校アーチェリー競技大会

○高校50・30mの部 優勝、4位

○中学50・30mの部 優勝、準優勝、4位

○中学30mダブルの部 4位

第29回兵庫県高体連 神戸支部アーチェリー新人戦

○団体 2位

○個人 2位

第33回全兵庫アーチェリー大会

○団体 3位

○中学女子の部 第3位

第59回兵庫県高等学校体育連盟アーチェリー競技新人戦

○団体 優勝

○個人 2位、3位、6位

2012年度兵庫県室内アーチェリー競技大会

○高校女子の部 優勝、3位

○中学女子の部 優勝、3位

平成24年度全関西室内アーチェリー大会

○中学女子の部 1位、4位

第9回かとうオープン室内アーチェリー大会

○中学女子の部 1位、3位

○高校女子の部 1位、2位

第36回じぎく杯室内アーチェリー競技大会

○中学女子の部 優勝、準優勝、3位、5位

○高校女子の部 4位、5位

【弓道部】

第25回兵庫県高体連神戸支部春季弓道大会

○女子団体の部 優勝、2位

○女子個人の部 2位、3位

平成24年度神戸市民大会

○中学生女子の部 2位、3位

○高校生女子の部 1位、3位

第56回兵庫県高等学校総合体育大会弓道大会

○女子団体の部 3位

第53回兵庫県高体連神戸支部秋季弓道大会

○女子団体 総合の部 優勝、準優勝

○ 遠的の部 優勝、3位

○ 近的の部 優勝

○女子個人 総合の部 準優勝、5位

○ 遠的の部 準優勝、3位

第59回兵庫県高等学校秋季弓道大会

○女子近的個人の部 優勝、第4位、第6位

○女子遠的団体の部 優勝、準優勝

○女子遠的個人の部 優勝、準優勝

第31回全国高等学校弓道選抜大会兵庫県予選

○女子個人の部 第2位

○女子個人の部 第3位

【ソフトボール部】

第1回高等学校親善ソフトボール大会

○第3位

【演劇部】

第43回神戸市高校演劇発表会

○最優秀賞（県大会進出）

第36回兵庫県高校総合文化祭演劇部門発表会

○優良賞

【コーラス部】

第79回NHK全国学校音楽コンクール兵庫県大会

○中学コーラス部 銀賞

○高校コーラス部 銅賞

兵庫県合唱コンクール

○中学コーラス部 金賞（関西大会出場）

○高校コーラス部 銀賞

第67回関西合唱コンクール

○中学コーラス部 中学同声の部 金賞

第59回MBS こども音楽コンクール近畿地区ブロック大会（テープ審査）

○中学コーラス部 優秀賞（西日本大会進出）

平成24年度MBS こども音楽コンクール西日本大会

○最優秀賞（全国大会進出）

【茶道部】

平成24年度兵庫県高等学校茶道研鑽会

○優秀賞（近畿大会出場）

【写真部】

第36回兵庫県高等学校総合文化祭 写真コンテスト神戸支部予選

○奨励賞

インターハイスクールカップ・フォトコンテスト2013

○兵庫県高等学校写真連盟会長賞および入選

【書道部】

第59回日本学書展

○準特選

【放送部】

兵庫県高校放送フェスティバル(第1地区)

○中学アナウンス部門 入選、奨励賞

兵庫県高校放送フェスティバル（第2地区）

○アナウンス部門 金賞

○朗読部門 入選

<教科活動>

【書道】

第45回私学の書展 特選

第62回神戸市小・中・特別支援学校書き初め展 金賞、銀賞、銅賞、入選

第21回記念国際高校生選抜書展 入選

【社会】

平成24年度中学生の「税についての作文」

○芦屋東灘納税貯蓄組合連合会長賞

【美術】

平成24年度「美緑花こうべ」環境ポスター展 「ゴミ」の部 佳作

<個人>

【ゴルフ】

石川遼カップ ジュニアゴルフチャンピオンシップ地区大会

○15～18歳女子の部 第3位

【馬術】

第49回大阪府民馬場大会

○中障害C飛越競技 2位

○中障害D飛越競技 5位

○中障害飛越D 4位

第11回ORAグランドホースショー

○中障害飛越D 5位

第24回サマーナイトホースショー

○第7競技中障害C 準優勝

○中障害D 準優勝

第67回国民体育大会馬術競技

○少年リレー競技 第6位

○少年二段階障害飛越 第4位

大阪グランプリ第38回ファイナル

○第9競技グランプリアマゾネス 第3位

第38回杉谷インドアホースショー

○中障害飛越競技C 第2位

○中障害飛越競技C 第3位

第50回 大阪府馬術大会

○第9競技中障害C飛越競技 第2位

【善行】

芦屋警察署長より高 1 生徒 2 名に感謝状
(阪急芦屋川駅付近で 2 歳の女の子保護に協力)

(8)安全教育

4 月と 2 月に全校で「自衛消防総合訓練」を実施しました。5 月には教職員対象に「AED心肺蘇生法講習会」を実施しました。12 月には生徒を対象に「防犯教室」を開催しました。2 月には「アナフィラキシー研修会」を実施し、急性アレルギー反応について研修を行いました。生徒が多数下校する 15 時 45 分から 17 時 45 分には、安全巡視員の巡回による不審者対策を講じました。特に治安が心配される甲南山手駅北側の阪急の地下道には、15 時 30 分から 17 時 30 分の 2 時間、教員による「立ち番」を設けました。

(9)生徒募集

ホームページや駅看板等のメディア、説明会への参加等を中心に生徒募集を実施しました。本校を会場とした学校説明会は、6 月、10 月、11 月の 3 回実施しました。従来、土曜日の午後に実施していたものを日曜日にも実施し、3 回合計で 898 組の出席を得ました。また、12 月には図書館にて個別相談会を実施し、44 組の出席を得ました。校外では 6 月に塾対象の説明会をルナホールで実施しました。平成 25 年度入試では、S アドバンストコース 2 クラス、スタンダードコース 3 クラスの募集を行い、志願者数は 689 名でした。最終的な実質倍率は、S アドバンストコース 1.98 倍、スタンダードコース 1.48 倍、全体で合計 1.51 倍となり、181 名が入学しました。

Ⅲ. 財務の概要

(1)平成 24 年度決算の状況

【資金収支計算書】

【収入の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金収入	5,842,501	5,814,871	27,630	100.5%
手数料収入	121,505	116,967	4,538	103.9%
寄付金収入	22,740	91,600	△68,860	24.8%
補助金収入	554,388	544,779	9,609	101.8%
資産運用収入	189,292	188,147	1,145	100.6%
資産売却収入	5,901,650	4,700,681	1,200,969	125.5%
事業収入	86,150	82,415	3,735	104.5%
雑収入	217,907	224,271	△6,364	97.2%
前受金収入	1,100,965	1,066,460	34,505	103.2%
その他の収入	1,051,168	3,414,193	△2,363,025	30.8%
資金収入調整勘定	△1,335,536	△1,275,476	△60,060	104.7%
計	13,752,730	14,968,908	△1,216,178	91.9%
前年度繰越支払資金	4,282,349	4,229,995	52,354	101.2%
収入合計	18,035,079	19,198,903	△1,163,824	93.9%

『収入の状況』

資金収入計(前年度繰越支払資金を除く)は、前年比 12 億 16 百万円減の 137 億 52 百万円となりました。主な減少は、その他の収入 23 億 63 百万円減(校舎改築引当特定資産からの繰入収入 20 億円減)によるものです。主な増加は、資産売却収入 12 億円増(国債・社債・国庫短期証券の償還収入増)によるものです。

【支出の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
人件費支出	3,760,502	3,701,199	59,303	101.6%
教育研究経費支出	1,146,718	1,111,354	35,364	103.2%
管理経費支出	482,600	505,260	△22,660	95.5%
施設関係支出	338,829	1,814,184	△1,475,355	18.7%
設備関係支出	324,426	480,120	△155,694	67.6%
資産運用支出	6,995,503	7,275,920	△280,417	96.1%
その他の支出	504,339	383,454	120,885	131.5%
資金支出調整勘定	△223,366	△354,937	131,571	62.9%
計	13,329,551	14,916,554	△1,587,003	89.4%
次年度繰越支払資金	4,705,528	4,282,349	423,179	109.9%
支出合計	18,035,079	19,198,903	△1,163,824	93.9%

『支出の状況』

資金支出計（次年度繰越支払資金を除く）は、前年比 15 億 87 百万円減の 133 億 29 百万円となりました。主な増加は、人件費支出 59 百万円増、教育研究経費支出 35 百万円増によるものです。一方、主な減少は、施設関係支出 14 億 75 百万円減、設備関係支出 1 億 55 百万円減、資産運用支出 2 億 80 百万円減です。資産運用支出の内容は有価証券の長期運用(国債・財投機関債・定期預金)36 億円、1 年以内の短期運用(国庫短期証券)34 億円です。

【資金収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
資金収支差額	423,179	52,354	370,825	808.3%

*資金収支差額=資金収入計－資金支出計

『資金収支差額の状況』

資金収支差額は前年比 3 億 70 百万円増の 4 億 23 百万円となりました。この結果、次年度に繰越される支払資金は 47 億 5 百万円となりました。

平成 24 年度の主な施設設備整備事業は次のとおりです。

大学

1. 7 号館 エレベーター設備	73,290 千円
2. 7 号館 製菓授業用教室改造(生活環境学科)	36,381 千円
3. 5 号館 コモンルーム改造(文化社会学科)	24,024 千円
4. 学内 LAN 設備	20,482 千円
5. CALL 教室 PC 設備	62,012 千円

中高校

1. テニスコート新設	73,739 千円
2. 弓道場の場設備	39,270 千円
3. 視聴覚教室 AV 設備	23,121 千円
4. CAI 教室 PC 設備	18,426 千円

【消費収支計算書】

【消費収入の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
学生生徒等納付金	5,842,501	5,814,871	27,630	100.5%
手数料	121,505	116,967	4,538	103.9%
寄付金	26,143	96,607	△70,464	27.1%
補助金	554,388	544,779	9,609	101.8%
資産運用収入	189,292	188,147	1,145	100.6%
資産売却差額	3,880	0	3,880	—%
事業収入	86,150	82,415	3,735	104.5%
雑収入	217,907	224,271	△6,364	97.2%
帰属収入合計	7,041,766	7,068,057	△26,291	99.6%
基本金組入額合計	△157,313	△506,774	349,461	31.0%
消費収入の部合計	6,884,453	6,561,283	323,170	104.9%

『消費収入の状況』

(1) 学生生徒等納付金

学生数の増加により、前年比 27 百万円増の 58 億 42 百万円となりました。
期中の学生生徒数は 5191 名(平成 24 年 5 月 1 日現在)です。

(2) 手数料

前年比 4 百万円増の 1 億 21 百万円となりました。手数料の主なものは、入学検定料 1 億 13 百万円です。

(3) 寄付金

前期計上の学園創立 90 周年記念事業募金 71 百万円がなくなったため、前年比 70 百万減の 26 百万円となりました。主な寄付金は、中高校への教育環境整備資金として 19 百万円を受入しました。

(4) 補助金

前年比 9 百万円増の 5 億 54 百万円となりました。主な補助金は私立大学等経常費補助金 1 億 88 百万円、私立学校施設設備整備費補助金 35 百万円、私立高等学校等 IT 教育設備補助金 11 百万円、兵庫県私立学校経常費補助金 3 億 7 百万円です。

(5) 資産運用収入

前年比 1 百万円増の 1 億 89 百万円となりました。有価証券、積立特定資産、運転資金等の受取利息 1 億 83 百万円及び施設設備利用料 5 百万円です。

(6) 資産売却差額

車輛売却による差額 3 百万円です。

(7) 事業収入

主なものは、大学学生寮の寮費 80 百万円です。

(8) 雑収入

主なものは、退職金財団交付金収入 2 億 3 百万円及びその他の雑収入 14 百万円です。

この結果、帰属収入合計は前年比 26 百万円 (0.4%)減の 70 億 41 百万円となりました。

【消費支出の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
人 件 費	3,693,463	3,592,274	101,189	102.8%
教 育 研 究 経 費	1,859,862	1,826,355	33,507	101.8%
管 理 経 費	547,993	572,741	△24,748	95.7%
資 産 処 分 差 額	393,708	565,348	△171,640	69.6%
徴収不能引当金繰入額	3,770	6,405	△2,635	58.9%
消費支出合計	6,498,796	6,563,123	△64,327	99.0%

減価償却費の内訳

内訳	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
教育研究経費	713,144	715,001	△1,857	99.7%
管 理 経 費	65,393	67,481	△2,088	96.9%

『消費支出の状況』

(9) 人件費

教員の増加により、前年比 1 億 1 百万円 (2.8%) 増の 36 億 93 百万円となりました。期中の本務教職員数は 304 名、兼務教職員数は 329 名で、帰属収入に占める人件費割合は 52.5% (前年同比率 50.8%) となりました。

(10) 教育研究経費

前年比 33 百万円 (1.8%) 増の 18 億 59 百万円となりました。減価償却費を除く経費は 11 億 46 百万円 (前年比 3.2% 増) で、前年度より 35 百万円増加しました。主な増加は中高校新校舎建替に伴う旧校舎の取壊費用 47 百万円です。減価償却費は 7 億 13 百万円となりました。帰属収入に占める教育研究経費の割合は 26.4% (前年同比率 25.8%) となりました。

(11) 管理経費

前年比 24 百万円 (4.3%) 減の 5 億 47 百万円となりました。主な減少は前期計上した大学の管理棟屋上防水工事 30 百万円がなくなったことによるものです。帰属収入に占める管理経費の割合は 7.8% (前年同比率 8.1%) となりました。

(12) 資産処分差額

前期計上の有価証券評価差額がなくなったため、1 億 71 百万円減少しました。今期は中高校新校舎建替に伴う旧校舎を取壊したため、建物処分差額 3 億 59 百万円を計上しました。

(13) 徴収不能引当金繰入額

貸与奨学金及び学費の徴収不能引当金で 3 百万円を計上しました。

この結果、消費支出合計は前年比 64 百万円 (1%) 減の 64 億 98 百万円となりました。

【収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
当年度消費収入超過額	385,657	△1,840	387,497	—%
前年度繰越消費収入超過額	5,010,487	3,610,205	1,400,282	138.8
基本金取崩額	0	1,402,122	△1,402,122	—%
翌年度繰越消費収入超過額	5,396,144	5,010,487	385,657	107.7%

『基本金組入・消費収支差額の状況』

第 1 号基本金は、施設設備の取得総額 1 億 57 百万円を組入ました。

『帰属収支差額の状況』

(単位:千円)

帰属収支差額	H24 年度決算	H23 年度決算	増減	増減率
帰属収入—消費支出	542,970	504,934	38,036	107.5%

当期は前年度より 38 百万円 (7.5%) 増加し 5 億 42 百万円となりました。帰属収入に対する割合は 7.7% (前年同比率 7.1%) となりました。

【貸借対照表】

【資産の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度末	H23 年度末	増減	増減率
固定資産	39,619,376	39,634,755	△15,379	100.0%
有形固定資産	21,364,593	21,865,146	△500,553	97.7%
土地・建物・構築物	17,472,596	18,054,837	△582,241	96.8%
機器備品・図書・車輛	3,891,997	3,810,309	81,688	102.1%
その他の固定資産	18,254,783	17,769,609	485,171	102.7%
特定資産・有価証券	18,099,521	17,600,293	499,228	102.8%
教育ソフトウェア他	155,262	169,316	△14,054	91.7%
流動資産	4,999,864	4,514,830	485,034	110.7%
現金預金	4,705,528	4,282,349	423,179	109.9%
未収入金他	294,336	232,481	61,855	126.6%
資産合計	44,619,240	44,149,585	469,655	101.1%

『資産の状況』

固定資産は、15 百万円減少し 396 億 19 百万円となりました。

有形固定資産のうち建物(主に中高校新校舎建替に伴う旧校舎取壊)は6億61百万円減少し、その他の固定資産のうち特定資産(積立金)は5億円増加しました。

流動資産は、4 億 85 百万円増加し 49 億 99 百万円となりました。これは主に現金預金が4億23百万円、未収入金が58百万円増加したことによるものです。

この結果、資産総額は前年度より4億69百万円増加し446億19百万円となりました。

【負債の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度末	H23 年度末	増減	増減率
固 定 負 債	1,314,056	1,420,275	△106,219	92.5%
退職給与引当金	1,275,246	1,342,285	△67,039	95.0%
長期未払金	38,810	77,990	△39,180	49.8%
流 動 負 債	1,580,109	1,547,206	32,903	102.1%
前 受 金	1,100,965	1,066,460	34,505	103.2%
短期未払金他	479,144	480,746	△1,602	99.7%
負債合計	2,894,165	2,967,481	△73,316	97.5%

『負債の状況』

退職給与引当金が67百万円、長期未払金が39百万円減少したため、負債総額は前年度より73百万円減少し28億94百万円となりました。

【基本金の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度末	H23 年度末	増減	増減率
第 1 号 基 本 金	34,618,931	34,461,617	157,314	100.5%
第 3 号 基 本 金	1,210,000	1,210,000	0	100.0%
第 4 号 基 本 金	500,000	500,000	0	100.0%
基本金合計	36,328,931	36,171,617	157,314	100.4%

【消費収支差額の部】

(単位:千円)

科目	H24 年度末	H23 年度末	増減	増減率
翌年度繰越消費収支 差額	5,396,144	5,010,487	385,657	107.7%

【負債、基本金、消費収支差額の部合計】

(単位:千円)

科 目	H24 年度末	H23 年度末	増減	増減率
負債、基本金、消費収支 差額計	44,619,240	44,149,585	469,655	101.1%

(正味財産)

(単位:千円)

基本金+消費収支差額	H24 年度末	H23 年度末	増減	増減率
	41,725,075	41,182,104	542,971	101.3%

『正味財産の状況』

当期において1億57百万円を第1号基本金へ組入たため、基本金総額は363億28百万円となりました。この結果、総資産から総負債を差し引いた正味財産は前年度より5億42百万円増加し417億25百万円となりました。

(2)財務状況の推移

消費収支計算書(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
学生生徒等納付金	4,691,593	5,217,918	5,663,438	5,814,871	5,842,501
手 数 料	95,660	108,244	122,941	116,967	121,505
寄 付 金	37,984	49,655	45,770	96,607	26,143
補 助 金	566,748	650,695	671,756	544,779	554,388
資 産 運 用 収 入	392,152	278,106	224,662	188,147	189,292
資 産 売 却 差 額	1,278	746	150,327	0	3,880
事 業 収 入	34,528	84,907	84,345	82,415	86,150
雑 収 入	149,211	115,583	167,221	224,271	217,907
帰 属 収 入 合 計	5,969,154	6,505,854	7,130,460	7,068,057	7,041,766
基本金組入額合計	△328,700	△326,597	0	△506,774	△157,313
消費収入の部合計	5,640,454	6,179,257	7,130,460	6,561,283	6,884,453

科目	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
人 件 費	3,298,264	3,348,129	3,513,052	3,592,274	3,693,463
教 育 研 究 経 費	1,751,537	1,844,017	1,895,576	1,826,355	1,859,862
管 理 経 費	757,205	524,054	598,110	572,741	547,993
資 産 処 分 差 額	18,787	395,833	282,131	565,348	393,708
徴収不能引当金繰入額	6,669	12,578	14,086	6,405	3,770
消費支出の部合計	5,832,462	6,124,611	6,302,955	6,563,123	6,498,796
当年度消費収支差額	△192,008	54,646	827,505	△1,840	385,657
前年度繰越消費収支差額	2,438,639	2,246,631	2,301,277	3,610,205	5,010,487
基 本 金 取 崩 額	0	0	481,423	1,402,122	0
翌年度繰越消費収支差額	2,246,631	2,301,277	3,610,205	5,010,487	5,396,144

主な財務比率(5ヵ年)

科 目		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	算式
消費収支計算書	学生生徒等納付金比率	78.6%	80.2%	79.4%	82.3%	83.0%	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$
	人 件 費 比 率	55.3%	51.5%	49.3%	50.8%	52.5%	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$
	教育研究経費比率	29.3%	28.3%	26.6%	25.8%	26.4%	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$
	帰属収支差額比率	2.3%	5.9%	11.6%	7.1%	7.7%	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$

貸借対照表の推移(5ヵ年)

(単位：千円)

科目	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
固 定 資 産	39,072,395	38,912,858	39,196,638	39,634,755	39,619,376
流 動 資 産	3,326,180	3,913,575	4,420,306	4,514,830	4,999,864
資 産 の 部 合 計	42,398,575	42,826,433	43,616,944	44,149,585	44,619,240
固 定 負 債	1,454,715	1,537,395	1,510,521	1,420,275	1,314,056
流 動 負 債	1,475,438	1,439,373	1,429,253	1,547,206	1,580,109
負 債 の 部 合 計	2,930,153	2,976,768	2,939,774	2,967,481	2,894,165
基 本 金 の 部 合 計	37,221,791	37,548,388	37,066,965	36,171,617	36,328,931
翌年度繰越消費収支 差額	2,246,631	2,301,277	3,610,205	5,010,487	5,396,144
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部 合計	42,398,575	42,826,433	43,616,944	44,149,585	44,619,240

主な財務比率(5ヵ年)

科 目		H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	算式
貸借対照表	固 定 資 産 比 率	92.2%	90.9%	89.9%	89.8%	88.8%	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$
	固 定 負 債 比 率	3.4%	3.6%	3.5%	3.2%	2.9%	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$
	流 動 比 率	225.4%	271.9%	309.3%	291.8%	316.4%	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
	自 己 資 金 比 率	93.1%	93.0%	93.3%	93.3%	93.5%	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$

(注) 自己資金=基本金+消費収支差額
 総資金=負債+基本金+消費収支差額

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 員	
理 事 長	松 下 正 幸
理事長代理	中 内 仁
理事長代理	松 田 基
理 事	松 林 靖 明
理 事	清 水 洵
理 事	北 市 哲 朗
理 事	神 野 富 一
理 事	芦 田 徹 郎
理 事	荒 賀 直 子
理 事	清 水 俊 成
理 事	塩 原 勉
理 事	吉 松 典 子
理 事	南 保 子
理 事	熊 谷 信 昭
理 事	錢 高 一 善
理 事	伊 藤 勲
理 事	吉 沢 英 成
監 事	小 笹 定 典
監 事	森 房 子

評 議 員	
馬 場 伸 彦	松 下 正 幸
梅 崎 高 行	中 内 仁
森 圭 子	松 田 基
山 田 幸 弘	錢 高 一 善
矢 野 裕 丈	北 市 哲 朗
金 延 重 光	熊 谷 信 昭
宮 内 学	俵 正 市
松 林 靖 明	塩 原 勉
清 水 洵	伊 藤 勲
神 野 富 一	吉 沢 英 成
芦 田 徹 郎	平 生 誠 三
荒 賀 直 子	中 村 啓 子
清 水 俊 成	明 石 巧
吉 松 典 子	西 岡 良 和
南 保 子	鈴 木 俊 茂
有 澤 美 弥 子	湊 幸 雄
青 井 さ ゆ き	上 島 一 泰
中 田 伊 都 子	日 下 容 子
	直 木 佳 代

理 事	1 7 名
監 事	2 名
評議員	3 7 名

甲南女子学園 事務組織図

(平成25年3月31日現在)

は、法人管理運営組織

